

---

# 夢を見る魚

並盛りライス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夢を見る魚

### 【Nコード】

N0027B

### 【作者名】

並盛りライス

### 【あらすじ】

魚のぼうやは夢を見ます、大人になっても夢は続くのでしょうか  
…ぼうやとカモメのとても短い話

## （前書き）

この作品は、童話企画で「眠り」をテーマにした作品です。「十月の童話」で検索すると、他の先生の素晴らしい作品が読めます。ぜひ比較して楽しんでください。

冬の海は冷たく、冬の風はそれよりも、さらに冷たい。  
遠くの方で、煌めく宝石みたいな光の粒が、降り注ぐように落ちてくる。

「さっき、僕は鳥になったよ。」

魚のぼうやは言いました。

まだ、ほんの子供ですが体はもう立派な大人の魚です。

波の音は静かに、ほどけてやがて満ち引きを繰り返します。

「魚は空を飛べないのかな？」

海は空の青を映して、どこまでも穏やかでした。

「夢の中なら、飛ぶことは簡単さ。泳ぐ事だってできる。」

カモメ達が歌うように囁きます。

魚のぼうやは嬉しくなっ言います。

「大人になっても夢を見るの？」

ほんの少し、カモメ達は黙って。

「もちろんさ。」

と答えました。

「僕も一緒に連れて行ってよ。」

風は冷たく、海の表面を撫でるように吹きます。

「それはできないよ。」

カモメ達は言いました。

魚のぼうやは、悲しくなって泡の涙をポロポロ流します。

「おやすみぼうや。夢の中なら空だって飛べる。」

「僕、眠くなんかないよ。」

魚のぼうやが言いました。

「大人になったら忘れてしまう。でも思い出せばいいんだ。」

カモメはビュツと吹く風を受け止めながら言いました。

海を越えるのはカモメ達にとっては命がけです。

「さあ、おやすみ。大人になっても夢を見ることを忘れないようにね。」

カモメは空高く、海を泳ぐみたいにスイスイと遠ざかっていきました。

今日もぼつやは夢の中で、楽しく空を飛ぶのでしょうか。

それは深い深い眠りでした。

夢も見ないくらい深い眠りの中でぼつやは、眠る事は怖くないと知りました。

春になって、ぼつやが夢の話をするとはなくなりました。

でも、それはぼつやが忘れているだけで、夢はいつもぼつやの心の側で、カモメ達と共にありました。

春の海は穏やかで、時々船が思い出したように汽笛を鳴らす以外は静かでした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0027b/>

---

夢を見る魚

2010年12月2日15時30分発行